

策定年月	令和7年2月
見直し年月	—

麦・大豆国産化プラン

産地名：美郷町

（作成主体：美郷町）

1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

【現状と課題】

(現状)

美郷町は、水田面積における主食用米の作付割合が約64%を占める地域である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、加工用米等の生産拡大、園芸品目の導入等と併せて、大豆の生産を拡大する必要がある。

麦・大豆産地生産性向上計画において、令和8年には面積で600ha、単収210kg/10a、生産量1,260tを目標に生産を向上させ産地の生産性の向上を推進している。

(課題)

大豆の主な作付品種はリュウホウであり年間約1,000tを収穫している。全国の豆腐・豆乳企業に向けて販売されているが、近年、湿害対策の実施とともに農地集積が進む一方で、農地拡大に伴う作業の遅れによって安定供給が達成できておらず、県全体の方針と連携を図りつつ栽培技術向上を図ることによる作柄の安定化が必要である。

また、生産拡大と同時に、担い手への農地集積が急速に進んでいる現状を踏まえ、より効率的な生産を可能とする産地づくりのために、栽培技術の向上や機械導入による生産効率の向上による収量・品質の向上が必要となっている。

品質の向上については、本地域で生産している大豆は主にリュウホウであるが、出荷数量における1・2等の割合が10～20%程であることから、更なる品質の安定に向けた取り組みが必要となっている。

【課題解決に向けた取組方針】

上位等級の高位安定化に向け産地の生産性の向上のため

- ・ 湿害対策及び効率的な営農に向け、大規模団地化形成を推進するため、水田活用の直接交付金の産地交付金を活用し、大豆団地に取り組む生産者への助成を実施する。
- ・ 人口減少による人手不足を補い適期作業を確実に実施するため、効率的な営農を可能とする機械導入(は種機や管理機、収穫機等)により単収の向上と品質の安定を推進する。

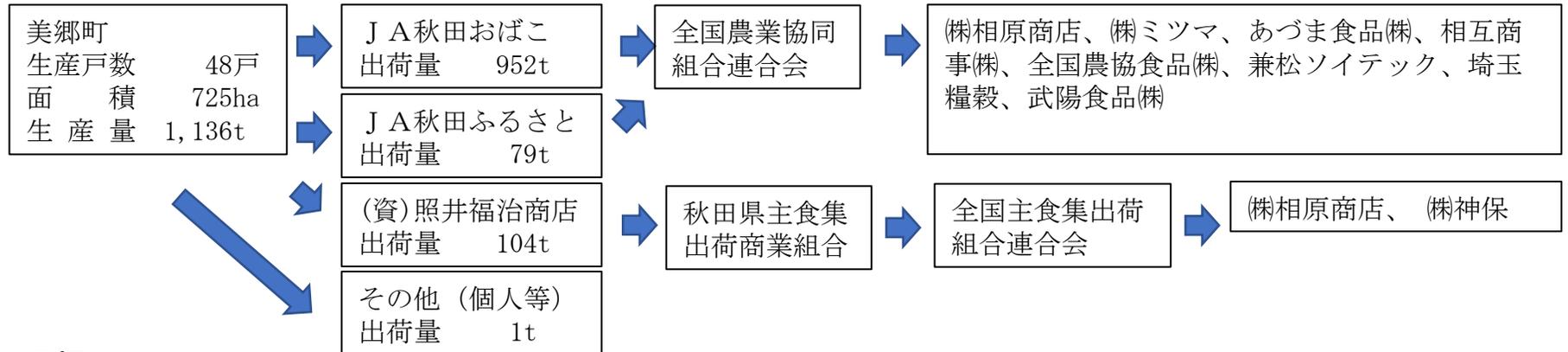
※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

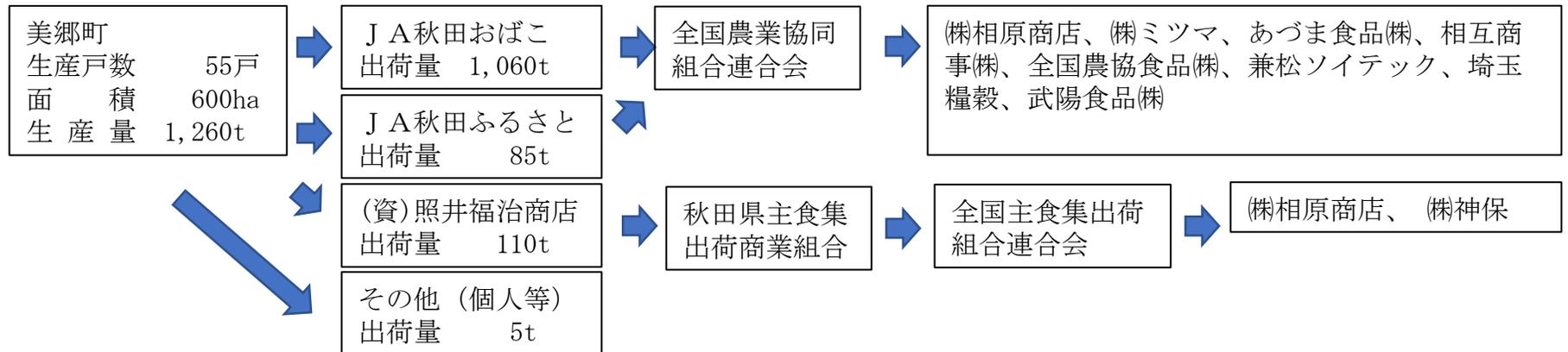
2. 産地と実需者との連携方針

本地域で生産された大豆を幅広くPRしていくためにも、大豆加工メーカー、JA、町等が連携し、これまで以上に実需者のニーズに沿った大豆生産に繋げていく。

現状(R6)



目標(R9)



※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

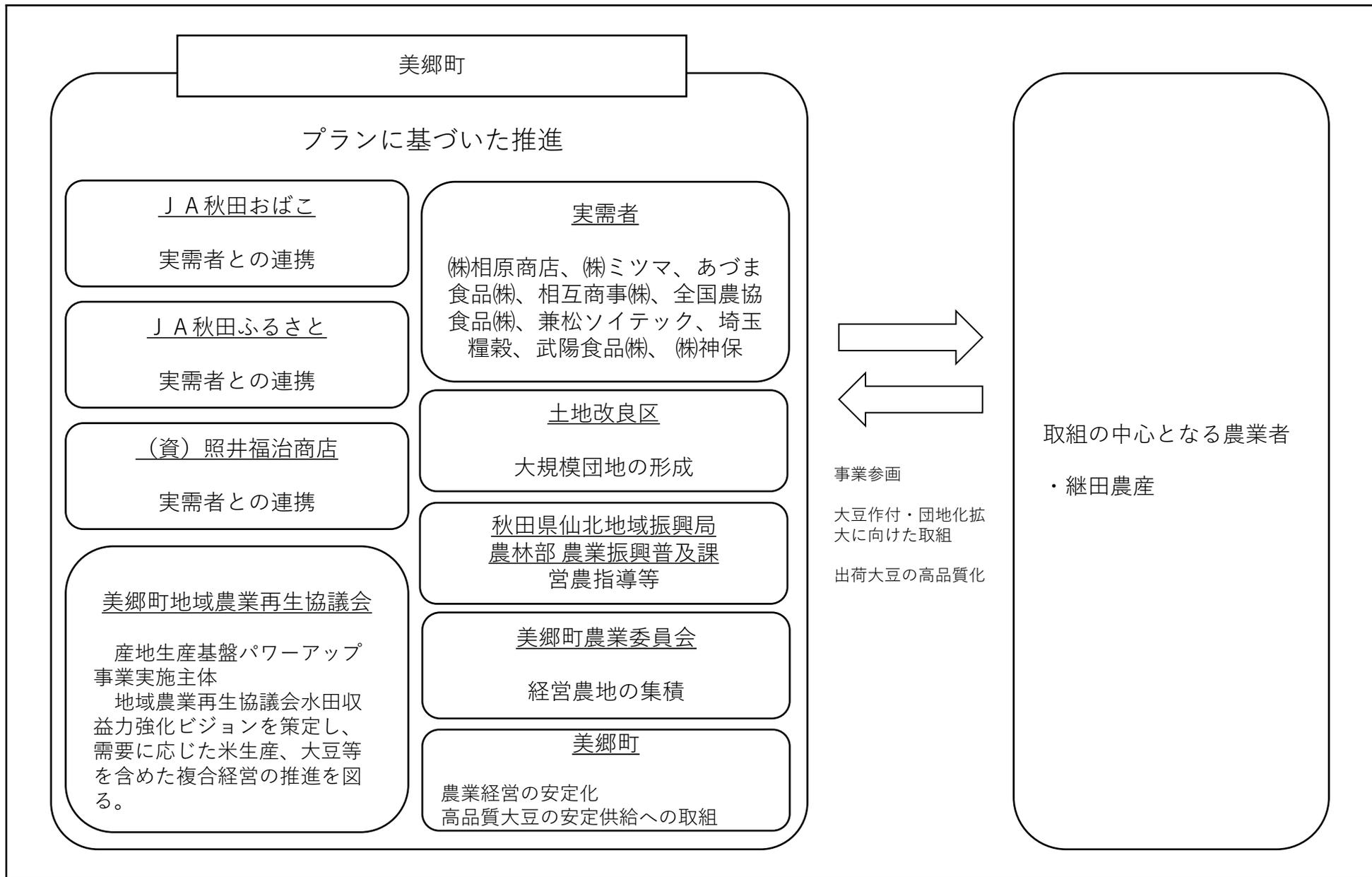
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。